

Title	小高泰雄・高橋吉之助共著 簿記概論
Sub Title	"The bookkeeping" by Y. Kodaka Y. Takahashi
Author	西垣, 富治
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1951
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.44, No.3/4 (1951. 4) ,p.176(102)- 178(104)
JaLC DOI	10.14991/001.19510401-0102
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19510401-0102

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

く思ふであらう。しかしここで若しも原著の表題が「フランス重商主義百年史」から「フランス重商主義者百年史」に書替へられたとするならば、かかる不満も幾分は緩和されるのではなからうか。個々の知識は得られても、一様の體裁を保ちながら纏つた知識の提示が出来なかつたのは本當に惜しい氣がする。

實にコルベールは歴史の大きな流れにおいて嘗て一つの中心であつた。又彼の努力がやがて後の歴史を左右するに至つたともいはれて来た。しかしこれは事實においてはコルベールを研究する場合の單なる前提であつて、これを以て彼の全活動を積極的に價值づけたと思ふならば餘りにも早計であらう。例へばコルベールによる産業の統制を問題とする場合、その原因なり經過なり又結果についてそれが正しかつたのか或ひは誤つてゐたのか、役に立つたのか或ひは害になつたのか、賢明だつたのか或ひは無分別だつたのかといふことが終始問題とされなければならぬであらう。かかる意味ではコルベール教授の態度は重商主義の研究にとつて餘りにも客觀的過ぎると思はれる。そして又そのやうな意味では本書はフランス重商主義の歴史といふよりは、實は一聯のフランス重商主義者の百科辭典とでもいつた方が當つてゐるかもしれない。勿論その場合原史料に忠實な立派な百科辭典であると附言する必要があるであらう。原史料參看の機會の少ない今日の我々にとつて、かかる限定付けの上には價値あるものといはねばならない。(一九五〇・一一・二八)

評書

小高泰雄・高橋吉之助共著
『簿記概論』

西垣富治

或る一つの主體の下に財(勞働をも含む)が統一されて、それ自體經濟を営んでいる組織體であるならば、その組織體は、必ず、何らかの方法で簿記をもつ必要を自ら感じるようになるであらう。そのことは、消費經濟を営む家、もしくは、國家であつても、生産經濟を営む企業であつても變りはない。しかし、前者においては、その簿記は、主として、收支計算のために行われるのであるから、比較的單純な方法が用いられる。それに對して、後者は、主として損益もしくは所得を期間的に決定するために必要となるのであるから、その簿記は、企業の經濟活動に伴う諸現象、すなわち、經營經濟現象を時間的に秩序正しく記録し、計算し、整理して活動の成果を正確に決定しなければならぬ。ただ、事務上の經濟性、もしくは、マテリアリティの原則に基いて、その精密性には自ら差異があるとしても、その成果を確實に決定するためには、どうしても完全な簿記を必要とする。

完全な簿記とは、複式簿記を指しているのである。それ以外

の不完全な簿記は、これを總稱して單式簿記と呼ばれる。複式簿記は、極めて簡明な理論の下に構成され、しかも、それによつて複雑な經營經濟現象が逐一計數的に記録される。これを分析しもしくは總合し、比較することによつて企業の財政状態、または、經營成績を明かにすることができる。この意味において、簿記は、最も優れた科學的な記録方法であるといわねばならない。それにもかかわらず、多くの入門者は、ただ「面倒臭い」という一語の下にややもすれば、その勉強を放棄しようとするようになり易い。就中、學生の多くは、その内容が金錢取引に關するものであることから、それに興味をもてなくなつてくるようである。そこで、簿記に興味を起させるためには、先ず、その教授法の研究に力が盡されなければならない。ところが、一般に、簿記書は極めて没趣味的であるばかりでなく、その説明法が、最初から部分的な項目をあまりに精細に述べ過ぎる傾きがある。企業活動の全體をまだ充分に理解しないものに對して、その部分的構成をいかに細密に説明しても、それは、徒らに、學生を疲らせるだけであつて、あまり効果はあがらない。従つて、最もよい教授法としては、先ず、第一に、企業活動の全構成を概説し、漸次、單純な原理から複雑な活用にごこれを展開せしめ、全體から部分へ、部分的説明から細目に及ぶという順序が選ばなければならない。

本書は、二五四頁のA5版で、全文を五章に分け、その内容

小高泰雄・高橋吉之助共著『簿記概論』

は次の通りである。

第一章、企業における資本の循環　ここでは、全體としての企業活動の本質を説明し、何故に、企業が資本計算制度として、簿記を採用しなければならないかという理由を明かにする。

第二章、複式簿記の構造　複式簿記のメカニズムを明らかにするために、勘定、貸借、仕譯の意義、及び、その性格を説明し、さらに、各種の勘定科目についてその具體的な記入方法を示す。

第三章、決算の手續　ここでは、決算の方法を記入例によつて説明する。試算表の作成、精算表による運算、帳簿の締切、及び、決算報告書の作製という順序で述べられる。

第四章、諸種の取引仕譯法　特に重要取引として手形、商品、及び、資本に關する諸取引をとりあげて、その精細な説明が行われる。殊に、株式會社の資本については、今次改正の商法規定に即して、資本剰餘金、利益剰餘金の區別、授權資本、無額面株の處理、剰餘金處分等に關する新しい諸問題が詳しく説明される。

第五章、帳簿組織　最後の章として、帳簿組織の發達及び帳簿の構造に關する解説が行われ、また、それに附帶する諸傳票が可なり詳しく述べられる。

本書の全章を通じて強く感ぜられることは、著者が常に經營

經濟學的見地から簿記を眺めようとしてゐる點である。序文にも述べられてゐるように、簿記は、ただ、單に企業經理を擔當するもの専門的特殊技術として必要な知識であるだけではなく、廣く、近代人の一般教養の學として知識人が修めなければならぬ學であるという信念、けだし、このような着想から湧いてくるであらう。

本書の特徴としては、次の諸點をあげることができる。
(1) 決算の修正記入を一々精算表によつて具體的に説明した。この試は、決算報告書作製上の要領を理解せしめる上に有効である。

(2) 資本取引に關する説明が、改正商法に基いて敘述されていること。この點において本書は、最も斬新な諸問題をとりあげてゐる。

(3) 各章の終りに、適正な例題を豊富に掲げたこと。これによつて讀者は自習の便をもつことができる。

以上の外に、さらに特筆すべきことは、巻頭に福澤諭吉「帖合之法」、卷一、第一編から、簿記の重要性を強調した二節が引用され掲げられてゐることである。明治六年、我國へ始めて複式簿記を紹介された故人の熱情をここに新らたに再生せしめることは大いに意義のあるものといわねばならない。

本書の敘説は、全巻にわたつて懇切丁寧ですこぶる理解し易い。ただ、一つその敘説において粗より精に展開される過程に

編集後記

○米國の軍擴氣構の強化と豫期しなかつた朝鮮動亂の發生により、安定的不況傾向にあつた我國經濟は一轉して、鑛工業の生産水準は早くも戰前を超え、貿易は計畫を二割上廻り、ために企業の滞貨が一掃される等の成果を見たが、他面これに伴つて一應上界を示した實質賃銀が内外の物價騰貴に因つて再び低下傾向を辿りはじめ、また優良大企業の自己蓄積獎勵が税制、金融、貿易を通じて強化されたために業種別に資本調達力の差が目立つてきた。こうした國民消費支出と資本蓄積との不均衡は社會的不安をも内藏する重大な問題となりつゝある。

○更に最近には棚卸資産の充實の問題が重要工業における原料の確保如何という形で現われ、それが再生産過程を最も直接に制約する要素であるだけにこの原料問題を中心に再び統制の聲を聞く近頃ではある。まことに米國をはじめ英佛にも軍備強化に伴う統制が進行しつつあるとき、講和の具體化とともに國際經濟の振幅に支配される程度の愈々大となつた日本經濟が獨り安易な自由經濟に止まるを得ないとしても、「統制」が過去のその如きものであつてはならず、殊に企業の科學的合理化に對する自主的意欲を鈍らすことのないよう構想されるべきである。例の輸出入價格間のシェーレもこれを政策にのみ依存する態度は正しい解決を導出するものではない。

○日本經營學會の大會が今秋當塾に開催されることとなつたが、此の機會に我々はその成果を海外に問ひたいと思ふ。(高橋吉之助)

お断り

此度本誌の發賣を直接發行所で行うことになり、右業務一切を紀伊國屋書店から繼承しましたから御承知下さい。

一定の系列が示されることが望ましい。その敘説系列としては、本書としては企業形態もしくは經營規模を考慮されるべきではないかと思われるのであるが、その點においてはあまり考慮されていないようである。或は、著者は、その對象を株式會社におかれたのであるかもしれないが、その經營規模が考慮されるならば、混合勘定としての商品勘定は、三分法による分割だけにとどめないで、七分法もしくは九分法にまで展開せしめた方が、他方において、株式會社の資本構成をあれだけ精細に述べたことと調和するのではないであらうか。また、企業形態の點からは、その彼列が個人企業形態から、まつしぐらに、株式會社形態へと幕進し、その中間における合名、合資の人的會社形態を顧みない點は、或は、故意に、その必要がないとして無視されたのであるかもしれないけれども、今日、なお、少なからずこの種の企業形態が現存する限り、一應、それにもふれておくことが望ましいような氣がする。

昭和二十六年三月二十五日印刷
昭和二十六年四月一日發行

第四十四卷
第三・四號

本號定價 九拾圓
送料 六圓

禁 轉 載

編輯 東京都港區芝三田慶大經濟學部内 高 村 象 平
發行所 東京都港區芝三田慶大町八 川 口 芳 太 郎
印刷所 東京都港區芝三田慶大町八 圖書印刷株式會社

豫約購讀料一年分 金八四〇圓(送料共)
半々年分 金四二〇圓(送料共)

豫約購讀料は發行所宛お拂込み下さい。
誌代變更の場合は精算決済致します。
編集に關する用件、營業に關する用件、販賣申込も發行所へ願ひます。

發行所 東京都港區芝三田二丁目
慶應義塾大學經濟學部研究室内
慶應義塾經濟學會
日本出版協會會員B二二〇一六